



## コンテンツ一覧

記載ページ	概要
2	2022年度 GBRC建築技術セミナーの開催について 
3～6	JASS 5の大改定について
6	改正されたコンクリート関係のJISについて紹介しています
7	材料性能評価委員会（コンクリート、鋼材・ボルト等）の開催日等について

### GBRC 性能評定課の業務に対する皆様のご意見やご感想をお聞かせ下さい

メールサービスで取り上げた内容（特に  の付いているコンテンツ）や GBRC 性能評定課の業務に対する皆様のご意見やご感想をお待ちしております。お送り下さいましたご意見やご感想は、今後の業務の品質向上に役立てさせていただきます。

ご意見やご感想をお聞かせ下さい。



ご意見・ご感想はこちらへお送り下さい：[seinou3@gbrc.or.jp](mailto:seinou3@gbrc.or.jp)

「2022年度 GBRC建築技術セミナー」を開催します。

前号でも取り上げましたとおり、**2022年度 GBRC材料技術セミナー【参加費無料】**を開催します。現在、GBRCのホームページ（[https://www.gbrc.or.jp/training/gbrc\\_meeting/#04](https://www.gbrc.or.jp/training/gbrc_meeting/#04)）で受付しておりますが、多くの方からお申込みを頂いております。

興味をお持ちの方がおられましたら、是非ご参加下さい（**東京会場は残席僅かです**）。

会 場	大阪会場	東京会場
開催日	2023年2月22日（水）	2023年3月22日（水）
場 所	大阪市中心公会堂	建築会館
開催方法	集合形式	
GBRCの参加部署	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築確認評定部 （材料部門、構造部門、避難・防災部門、建築確認部門）</li> <li>・ 構造部（構造試験室、耐震耐久性調査室）</li> <li>・ 数値解析室</li> <li>・ 構造計算判定部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築確認評定部 （材料部門、構造部門）</li> <li>・ 構造部 （耐震耐久性調査室）</li> </ul>
材料関係のご講演	<p>■ JASS5 の改定と次世代の鉄筋コンクリート造に望むもの （東京工芸大学 陣内 浩 教授）</p> <p>■ 持続可能な社会におけるセメント・コンクリートの役割 －社会環境材料としてのセメントの使命と可能性－ （島根大学 新大軌 准教授）</p>	

## JASS 5 が 改定されました (その1)

2022年11月に、**JASS 5 (建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事)** が13年ぶりに**大改定**されました。

2009年の大改定以降、2015年と2018年に部分改定が行われましたが、RC工事に関わる社会情勢の変化(国土強靱化・防災・減災の推進、建設技能労働者不足への対応、IT・ICT・IoTの活用推進、SDGsへの対応など)や、技術的な進歩(化学混和剤の高機能化、センシング・モニタリング技術の向上、化学分析技術・数値解析技術の高度化)をふまえ、下記の基本方針に従った改定がなされました。

- ・ 性能に基づく規定・検査の推進
- ・ 低炭素化・資源循環の促進
- ・ IT活用による施工・品質管理の合理化・効率化
- ・ コンクリートの高性能化 など

本号では、主な改定点のうち、下記について説明します。

- 「環境性」の設定
- 「非腐食環境」の設定
- 一般仕様のコンクリートにおける設計基準強度の範囲の見直し
- 超長期における計画供用期間の見直し
- 構造体コンクリート強度の検査方法の追加

なお、前号 (<https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/zairyohyokasyoumei05.pdf>) でご紹介したGBRCの**環境証明事業**では、「**環境性**」に関連する審査もさせていただきます。環境証明事業に興味をお持ちの方がおられましたら、是非ご連絡下さい。



## JASS 5 が 改定されました (その2)

### ■ 「環境性」 の設定

構造体および部位・部材に要求される性能の種類に、「環境性」が追加されました。環境性には、「資源循環性」、「低炭素性」、「環境安全性」があります。以下に「資源循環性」と「低炭素性」の2つの等級について説明します。

水 準	内 容	資源循環サブ等級の ポイントの合計値	備 考
資源循環等級 0	再生材料を使用しない	0	材料の種類ごとに示される資源循環サブ等級のポイントの合計値が左記の数値を満足するように、使用材料の種類および量を定め、工事監理者の承認を受ける。
資源循環等級 1	構成材料の一つに資源循環に貢献する再生材料	1	
資源循環等級 2	構成材料の複数に資源循環に貢献する再生材料 または 構成材料のひとつに資源循環に大きく貢献する再生材料	2以上4以下	
資源循環等級 3	構成材料の複数に資源循環に大きく貢献する再生材料	5以上	

水 準	CO <sub>2</sub> 削減率 (%)	使用する結合材の種類							
		ポルトランド セメント	ポルトランドセメントに高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シリカフュームまたは火山ガラス微粉末を混合したもの。ただし、それらの質量分率は下記のとおり。	高炉セメント			フライアッシュセメント		
				A種	B種	C種	A種	B種	C種
低炭素等級 0	0以上5以下	○	—	—	—	—	—	—	—
低炭素等級 1	5を超え20以下	—	結合材量の5%を超え30%以下	○	—	—	○	○	○
低炭素等級 2	20を超え40未満	—	結合材量の30%を超え60%以下	—	○	—	—	—	—
低炭素等級 3	40以上	—	結合材量の60%を超える	—	—	○	—	—	—

## JASS 5 が 改定されました (その3)

### ■ 「非腐食環境」 の設定

これまで耐久性は「一般的な劣化作用」と「特殊な劣化作用」の2つに分けていましたが、一般劣化作用を鉄筋の腐食に対する劣化作用の強さに応じて「非腐食環境」と「腐食環境」に区分しています。

劣化環境	定義	部位の例	
一般劣化環境 (非腐食環境)	鉄筋の腐食因子が存在しないとみなせる部位	外気に接することのない屋内空間にある部位で、直接の水漏れ、結露などによる水分供給の可能性のない部位	
一般劣化環境 (腐食環境)	鉄筋の腐食因子が存在する部位  一般劣化環境 (非腐食環境) でない部位	常時外気に接する屋外空間にある部位および土または水に直接接する部位	外壁や外部にあるスラブなど直接雨がかりが想定される部位および囲われていないピロティや常時開放された開口を介して外気に触れる駐車場など。
		屋内空間にあっても、外皮に接する部位	屋上スラブ・外壁など外皮の屋内側、地下の擁壁や基礎回りの屋内側で、腐食の条件となる水分供給の可能性が否定できない部位。
		屋内空間にあっても、水漏れや結露が想定される部位	台所、風呂、トイレ、屋内プールや地下ピットなどを有する室の壁・天井・床など、水漏れや結露などによる水分供給があると想定される部位。

部位・部材の種類		最小かぶり厚さ (mm)			
		一般劣化環境 (非腐食環境)	一般劣化環境 (腐食環境)		
			短期	標準・長期	超長期
構造部材	柱・梁・耐力壁	30	30	40	40
	床スラブ・屋根スラブ	20	20	30	40
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	20	20	30	40
	計画供用期間中に保全を行う部材	20	20	30	30
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部		40			
基礎		60			

## JASS 5 が 改定されました (その4)

### ■ 一般仕様のコンクリートにおける設計基準強度の範囲の見直し

高強度コンクリートが、設計基準強度が $48\text{N}/\text{mm}^2$ を超えるものに変更されました。これに伴い、**一般仕様のコンクリートにおける設計基準強度が $48\text{N}/\text{mm}^2$ 以下となります**。なお、これまでと同様にJIS A 5308や建築基準法第37条に基づく大臣認定とは高強度コンクリートの定義が異なるため、注意が必要です。

### ■ 超長期における計画供用期間の見直し

超長期における計画供用期間が、これまでの「おおよそ200年」から「おおよそ100年超」に変更されました。

### ■ 構造体コンクリート強度の検査方法の追加

「構造体コンクリート強度と受入検査における強度試験用供試体を併用する方法」が新たに規定されました。

## 2022年12月に改正されたコンクリート関係のJIS

2022年12月に改正されたコンクリート関係のJISの概要は下記のとおりです。なお、詳細については、当該JISでご確認下さい。

〔改正〕

JIS A 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法

- ・ 「適用範囲」や「用語及び定義」を規定。
- ・ 骨材の縮分方法に関するJIS A 1158を引用。

## 国交省申請状況

国交省申請から認定書交付まで、**コンクリートでは約2ヶ月、鋼材・ボルト等では約2.5ヶ月**を要しています（2023年1月現在）。製造時期がお決まりの場合は、余裕を持ったご準備をお願いいたします。



## 材料性能評価委員会（コンクリート、鋼材・ボルト等）の開催スケジュール


2023年2月と3月の材料性能評価委員会（コンクリート、鋼材・ボルト等）の開催予定日  
 (GBRCのHPでも掲載しています：[https://www.gbrc.or.jp/building\\_confirm/committee/](https://www.gbrc.or.jp/building_confirm/committee/))

2022年度		2月	3月	4月以降
コンクリート	事前検討会	15日	23日	(未定)
	承認委員会	13日	16日	(未定)
鋼材・ボルト等		3日	3日	(未定)

注) 新型コロナウイルス感染症の流行状況等によっては、開催日を変更させて頂く場合もございます。

なお、現場への実出荷等の関係で認定書の取得をお急ぎの場合には、事前検討会の臨時開催も検討させて頂きます。

### 別添等の雛形（コンクリート）や 打合せについて

- ▶ 現在の別添等の最新雛形  **Ver 13.2**  
※お手元にお持ちでない方はご連絡下さい。
- ▶ 事前のお打合せやご相談にも対応させて頂きます（**無料**）

**法第37条第一号に該当する鋼材の指定値申請**にも対応しています。鋼材やボルト等の指定値に関するご相談やご申請をご希望されている方がおられましたら、是非ご紹介下さい。

### 〔編集後記（津平 公彦）〕

2023年2月22日（水）と3月22日（水）に、それぞれ大阪と東京で2022年度GBRC建築技術セミナーを開催させて頂きます。ここ数年はオンデマンドでの配信とさせて頂きましたが、今回は会場での開催となり、皆様に直接お会いできる機会と考えております。SDGsの観点からの材料に関連するご講演も予定しております。興味をお持ちの方がおられましたら、是非お申込み下さい。

発行者：一般財団法人 日本建築総合試験所  
 建築確認評定センター 性能評定課 材料グループ  
 担当者：GBRC大阪事務所 荒井正直〔内部評価員〕  
 津平公彦、永田洋一  
 GBRC東京事務所 安田真弓  
 連絡先：GBRC大阪事務所 TEL 06 - 6966 - 7600 (代表)  
 080 - 8303 - 3869 (荒井)  
 080 - 8303 - 3870 (津平)  
 080 - 8303 - 3871 (永田)  
 GBRC東京事務所 TEL 03 - 3580 - 0866  
 E-mail：[seinou3@gbrc.or.jp](mailto:seinou3@gbrc.or.jp)